郷土館発

時の流れに…　三丁目の朝日を訪ねて

平成を振り返る話題の中で、『リモコンが増えた』ということを紹介しましたが、今回は電話機について考えてみました。

郷土館には、昔の電話機が保管されています。一番古いのがこの電話機です。自分の家にあったのをなんとなく覚えており、耳に当てる部分を持って遊んだような気がします。

次は、この黒電話。よその家宛の電話もかかってきて、よく呼びに行かされました。家の近くの郵便局には電話交換室があり、交換手のお姉さんが対話をしながらコードを操るのを見に行った覚えがあります。

ダイヤル式の電話機が登場します。この地方がダイヤル回線になったのは昭和四十三年頃です。その後、固定電話が進化を

し始めプッシュホン・留守電・コードレスなど、いろいろな機能が付いてきました。

平成になると携帯電話が普及し始め、その機能はこれまでの電話という範囲からかけ離れたものになっていきました。

そして【スマホ】の登場です。それはまるで電話がかけられる携帯型コンピューターです。

それにアプリなるもののおかげで、多種多様なことができ、電話機能以外のことに使う人が多いように見受けられます。最近では、自分の家の電化製品のオン・オフの確認や家の様子を見たり、ペットに話しかけたりすることもできるようです。前回、リモコンだらけの話を紹介しましたが、将来的には電子機器の制御をスマホに集約したり、声で遠隔操作したりすることが日常になってくるかもしれません。

電話機を取り上げ、「通信」という言葉でまとめることができないかな、と思ったのですが、もう昔の括り方を現実に合わせることが難しくなってきています。生活用具の進化に合わせた新しい考え方や言葉が、「令和」の時代に必要になってくると思います。また、新しい時代を生きるために、これまであったものの良さの再確認とそれを生かして行く柔軟性が必要になってもきます。

とりあえず、便利さや多様性に対応することはとても忙しいことだと思ってしまいます。

（奥三河郷土館長　渡邉　俊也）